

機関誌編集委員会（第11回）

議事録

日 時 令和3年6月22日（火）17:30～19:00

場 所 Zoom 会議

出 席 藤井義博（藤女子大学）、木内喜孝（東北大学）、守屋達美（北里大学）
安宅勝弘（東京工業大学）、吉川弘明（金沢大学）、久保田 稔（関西学院大学）
鎌野 寛（香川大学）

欠 席 工藤 喬（大阪大学）

吉川委員長を議長として開会。議事日程に従って議事を進行した。

議 題

1. 2020.6 発行の機関誌 58(2)「論文集」の編集についての報告（資料1）、（資料2）
吉川委員長より本年6月発行予定の58（2）の掲載論文（特17、一般20）、編集経過等について説明があり、全員異議なく承認した。
2. CAMPUS HEALTH 59(2)」（2022年5月発行予定）の編集について
次号特集テーマについて、藤井先生からの「ポスト・コロナの大学保健管理～メンタルヘルス・フィジカルヘルスの新展開～」を含め、検討した。コロナの話題で特集をくむことは、全員異議なく承認した。
 - ・1年後が、コロナのどの過程にあるのか with、ポスト、イントラ？
 - ・ワクチン、メンタル、保健管理、社会学的 を含めて、様々な立場の方の記録としてとどめておく必要がある。
 - ・テーマのイメージをまずは、吉川委員長からご提示いただくことになった。
 - ・特集の取りまとめを何方に願うか。今後、候補者を考えつつ、国立大学保健管理施設協議会 感染症特別委員会委員長・羽賀先生にも打診してみる。
3. 「CAMPUS HEALTH」の一般公開についての確認
 - ① 58(2)の一般公開について：全員異議なく承認した。

- ② 過去号(2)の掲載方法について：全員異議なく承認した。過去の号に1つ1つさかのぼって公開する。先生方に掲載しても問題がないか確認と検討いただき、問題があるものは省いて掲載する。
- ③ J-Stage への掲載準備体制について：まずは、編集委員長と事務局で進める。眞継元事務長から、公開するリスクがいくつか示されていた経緯があるので、もう一度確認しておく必要がある。

4. 投稿規定「2. 内容」の改訂について（資料3）

- ① 「編集は原則として特集論文を中心とし、」の削除について
全員異議なく承認した。原著論文の投稿も以前にくらべて増えてきたため、削除しても差し支えない。研究集会時の優秀演題を必ず掲載していたが、その規定がなくなったことも理由の1つ。
- ② 「総説」の設定について
 - ・ 全員異議なく承認した。特集の執筆依頼がなくても特集に投稿できるように。位置付けとして、募集するのは、総説、原著、症例報告。委員会で特集を組むことがある。と、する。
 - ・ 総説を追加することで、「なお、特集論文は他誌の総説に該当する。」以降も削除可能。

編集委員長が、(案)を作成して後日、委員に提示することになった。

5. 査読に要する期間について、回答期限の延長について

- ① 回答期限の延長について
全員異議なく承認した。基本的には2週間を目途に。エディターの判断で、編集期間などを考慮したうえで3週間必要なときは、事務局にその旨、伝える。
- ② 2回目の査読について
 - ・ 1回目の査読で、すべての指摘事項を出すのが原則、2回目で新たな指摘をするのはルール違反。ただ、1回目の査読で大幅な修正があったが故に、2回目にも新しい指摘があることは不可避である。「読みやすくなったために、新たな指摘があることをご容赦ください」などの工夫も。
 - ・ 2回目に大幅な修正をしてきた場合は、エディターが査読者に注意しても良い。エディターの采配を先生方にお願ひする。

6. 機関誌編集委員名簿について

① 九州地方部会が空席中、連絡待ち。

② 来年ご退任予定の先生が2名いらっしゃるので、今後の委員について

・メンタル系の投稿が増えてきているため、内科系、精神科系のバランスがとれている方が良くもあり、地方部会ごとの推薦の規定はあるが、実情にあわせる。

複数人の先生が入れ替わる時には、例外措置があっても良い。

・心理系の投稿が増えてきていることもあり、心理師を編集委員に加えることを委員会からの提案として反映できると良い。

以上をもって閉会とした。